



## 早稲田大学規範科学研究所と「知の市場」との連携

早稲田大学理工学術院 竹山春子

### 1. 早稲田大学規範科学研究所について

国際的な枠組みのなかで、化学物質や生物、さらには医療分野におけるリスクの評価や管理等に関して様々な討議が行われ、条約や法律など新しい枠組みの制定やその改正が進みつつある。さらに社会の関心も高まりつつあるなかで、日本におけるこれらに関する教育の現状を見ると、セミナーは単発的に開催されているものの、幅広い知見を体系付けて教育する体制が著しく立ち遅れ、社会人に対して教育・研修する機会は限られている。

例えば化学物質のリスクの評価と管理に関して1992年に国連環境開発会議で合意されたアジェンダ 21 第 19 章において人的能力の向上（キャパシティー・ビルディング）が最重要課題の一つに挙げられているように、化学物質や生物のもたらすリスクそして医薬品や医療機器のリスク評価や管理に関して専門人材の育成とともに、社会全体の認識の向上が大きな課題として取り上げられ、先進各国においては着実に成果を上げつつある。他方、日本では、これらのリスクの評価と管理に関わる規範科学（レギュラトリーサイエンス）の教育のあり方と方法に関して、検討は未だ緒にすぎたばかりであり、専門的能力を有する人材の活用を図るためにも社会全体の理解の底上げをしていくことが焦眉の急となっている。

早稲田大学規範科学総合研究所（<http://www.waseda.jp/prj-iirs/>）では、このような社会的現状を踏まえ、化学物質や生物そして医療分野におけるリスクの総合管理に関して社会の認識の向上を図り持続可能な発展に資するため、学生・院生を含む社会人を対象に勉強会を開講する実践を通して、科学的知見と論理的思考によって規範を構築するあり方や規範科学（レギュラトリーサイエンス）に関わる教育のあり方などについて調査研究を行うことを目的として設立された（平成21年4月スタート）。さらに、これらの成果、検証のもとに早稲田大学内での授業カリキュラムに発展させることも視野に入れている。



## 2. 「知の市場」連携による 2009 年度開講科目の紹介

早稲田大学内で、共催講座を開講するのは今回が初めての試みである。2009 年度前期は社会技術革新学会と連携で「リスクコミュニケーション特論（マスメディアとコミュニケーション）」、国立感染症研究所と「感染症総合管理 1 a（感染症との闘い～現在問題となっている感染症～）」の 2 科目を開講する。後期は 4 講座開講予定である。前期に引き続き国立感染症研究所と連携で「感染症総合管理 1 b（感染症対策～ワクチンを中心に～）」、化学生物総合管理学会との連携で「食の総合管理特論 2（食の安全・安心を確保するため知っておきたい食品衛生）」、「化学物質総合評価 1（リスク評価の基本的考え方～発がん物質を例として～）」、労働科学研究所との連携で「労働科学 1 a（21 世紀の労働科学）」を開講する。前期後期ともに火曜日（18：30～20：30）に開講するが、「化学物質総合評価 1（リスク評価の基本的考え方～発がん物質を例として～）」と「労働科学 1 a（21 世紀の労働科学）」は、土曜日に集中で開講し、5 日間で終了することになっている。

開講場所は副都心線の西早稲田駅がキャンパス内にある大久保キャンパス内であり、アクセスは非常に便利などから多くの受講生を期待している。

## 3. 「知の市場」参加の経緯

2008 年度から「科学・生物総合管理の再教育講座」に参加し、化学生物総合管理 U をお茶の水女子大等と共催し、2008 年度は化学物質や生物の総合管理を中心に、現代社会の理解に資する広範な分野の科目を 23 科目開講した。そして、そのうちの 1 科目を早稲田大学大学院の単位取得科目として活用した。2009 年度は早稲田大学内で開講する。

## 4. 抱負など

理科系大学院では、先端技術や製品開発に資するような研究を推進してきた。しかしながら技術が高度になればなるほどその安全性に関しては未知な領域になりつつある。多額の研究費を投入した結果、その安全性の認知が遅れることにより多大な損失を招くとの認識がまだ大学研究者の中には浸透していないのが事実である。これらの認識は大学の教育としても推進することが現在必要となっている。今回設立した規範科学研究所では、これらの問題にも取り組み、数年以内には大学院での教育プログラムへとレギュラトリーサイエンスのコンテンツを導入する予定である。レギュラトリーサイエンスの重要性を教育するだけでなく、それらの分野で活躍できる人材育成も大学の使命と考える。